

くにびき通信

2024年 1月号

大田市山村留学センター 三瓶こだま学園

はじめに

冬休みが終わり、センターに学園生が帰ってきました。令和6年、こだま学園20期生の3学期の始まりです。振り返れば昨年も多くの方々に支えられた一年でした。今年もどうぞセンターと学園生をよろしくお願いたします。

昨年末、学園生が帰省した後は、コロナ禍明け2回目となる冬の短期も実施し、32名の子どもたちがセンターを訪れ、4泊5日の活動を行いました。以前は短期活動と言えば、新規はもちろん、リピーターの子どもの参加が多く、子どもたちや指導員にとっても短期での再会は楽しみなものでしたが、先のコロナ禍により3年ほどの間、短期活動ができない期間がありました。コロナ禍の間も短期に参加したいと思ってきていた子どもも多くいた事でしょうが、これまで短期に参加してくれていた子どもたちはこの数年のうちに、すでに卒業してしまったり、次のステージへと進んだり、短期を再開した当初はなじみのメンバーの割合は減り新しい顔ぶれが目立つ印象がありました。しかし今回、コロナ禍明けから4回目の短期を実施するにあたり、半分以上の子どもたちが、2回目、もしくはそれ以上の短期参加経験者となりました。もちろん今後も、初めて短期に来る子どもたちや、1度しか参加しない子がたくさん出てくるでしょうし、1度だけの参加でも充分意義のあることだと思います。しかし、もう一度三瓶に行きたい、また活動をしたい、そしてリーダーやスタッフ、そして同じ時を過ごした仲間たちに会いたいという思いを持ってくれるのであれば、それはとても嬉しいことです。彼らがまた短期活動を通じて、三瓶に遊びに来てくれるのが楽しみです。またそんな中から、1年間の山村留学にチャレンジしてくれる子が出てくることも期待しています。

今年は暖冬だとうわさに聞きますが、本当に雪が少なくて驚いています。学園生の楽しみのアルペンスキーもあわや中止かと言う寸前で、人工雪に助けられているような現状です。今年はこれから冬らしい三瓶の雪景色を見られるのでしょうか。スキーやソリ、かまくらにイグルー、雪でやりたいことはたくさんです。雪かきや登下校は大変ですが、やっぱり冬の子どもの楽しみは雪遊び。これからの降雪に期待したいと思います。

指導員 浅平泰地



今回の活動カレンダー



日にち 2023年	活動内容
12月16日(土) 雨	原木割り・炭焼き
12月17日(日) 雪	餅つき
12月23日(土) 雪・曇	大掃除
1月7日(日) 晴れ	炭の窯出し 味噌仕込み

日にち 2024年	活動内容
1月8日(月・祝) 雪・曇	雪中デイキャンプ
1月13日(土) 曇・雪	アルペンスキー
1月14日(日) 晴れ	アルペンスキー

原木割り 12/16 (土)午前中



冷たい小雨が降るなか行った原木割り。1 mに玉切りした原木に鉞(まさかり)で割れ目を入れ、そこに楔(くさび)をはめ玄翁(げんのう)というハンマーのような道具で打ち込みます。楔を打つごとに割れ目が大きくなり、最後には原木が真っ二つになる…という仕組みの活動ですが、もちろんとても力と根気のいる作業です。例年この時期は雨雪もちらつき、決して活動のしやすい気候ではありませんが、学園生達はここで山村留学で培った粘り強さを試されます。割る係を交代しつつ、何とかすべての原木を割り切りました。

炭焼き 12/16 (土)午後



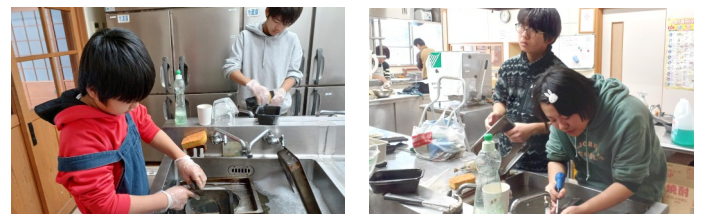
こちらは割り終わった原木を炭窯に入れる作業ですが、単純な作業だけでは終わらないのが炭焼きです。規則正しく原木を窯に収めたら、その原木の上には「乗せ木」という木を入れます。窯の中で火を焚くためには「薪木」も必要になります。原木割りの後はノコギリで細枝を切って乗せ木づくり、輪切りの原木を鉞(まさかり)で割って薪木づくりです。夕方になるにつれて凍える寒さになりましたが、皆弱音を吐くことなく黙々と薪を割り、無事、窯に火入れすることができました。この後、当分の間、指導員が窯の中の状態を観察します。

餅つき 12/17(日)



上立石の地域の皆さんにお越しいただき、餅つき活動を行いました。地域のお父さん方はお餅つき、お母さん方はお餅を丸めるスペシャリスト。色んな雑談を交えながらお餅をつくり、お昼に皆さんでいただきました。皆1学期の時よりも地域の皆さんと仲良くなり、まるで友達のようにおしゃべりしている姿が印象的でした！

大掃除 12/23(土)



2学期は浴場と厨房の掃除に取り掛かりました。浴場はサッシの隙間の埃など、普段お風呂に入る時は目を瞑っている箇所をしっかり向き合い、ピカピカに。厨房は換気扇周りを中心に掃除しましたが、「油汚れてこんなに落ちないの！」と驚く頑固さ。日頃の掃除とはまた違う大変さを実感している様子でした。

炭の窯出し 1/7(土)



年が明けてから最初の活動は、年末に仕込んでおいた炭の窯出し活動です。慎重に窯の入り口の赤土を解すと、どこか見覚えのある形の木々が、真っ黒の木炭として姿を変えて現れました。扱いやすいサイズに切り分けた後は箱詰めし、センターに持ち帰りました。マスクをしても鼻の周りには炭の粉がついてくるようで、活動後の皆はちよび髭顔になっていました！

味噌仕込み 1/7(土)



センターの毎日の食事に使っている味噌ですが、現在は3年前の17期生がつくった味噌をいただいています。この日は20期生の味噌づくり。麹菌がついたふわふわのお米を手で解し、塩や茹で大豆と共に混ぜ込み、味噌くり機という道具を使って味噌だねをつくります。皆生きている菌を触る感覚、味噌だねを丸める感覚を楽しんでいたようでした！

雪中デイキャンプ

1/8(月・祝)

2月にはキャンプの集大成ともいえる活動「雪中キャンプ」が控えています。この日は元々ノルディックスキーを予定していましたが、施設の予約が取れなかったことから、急遽雪中デイキャンプに活動内容を切り替えました。キャンプと言えば、秋のソロキャンプで大半の学園生が火起こしを達成できずに涙した記憶が新しい…。雪中ともなると火起こしの難易度はさらに上がりますが、この日は何とか全班マッチ1本で成功し、暖かい豚汁と炊き込みご飯を食べることができていました。今回ポイントとなったのは「いかに乾いた枯れ木を見つけ、火起こし前に十分集めておけるか」という点ですが、高い木に引っ掛かっていた枯れ木を班のメンバーと共に協力して取ったり、細かい枝を折って序盤の燃料を準備したりと、やるべきことを着実に遂行しようとしていた姿が多く見られました。

まだまだ課題点はありそうですがこの成功体験を糧に、是非2月の雪中キャンプに臨んでもらいたいです。



アルペンスキー

1/13(土)、1/14(日)

アルペンスキーを心待ちにしていた学園生達にとっては待ちに待った活動日。この土日のゲレンデの雪はほぼ人工雪でしたが、アルペンスキー最初の活動として滑るには十分な雪でした。初めてスキーをするという学園生達は最初緊張していた様子でしたが、講師として来てくださった大國さんのきめ細やかなご指導で、皆みるみるうちに表情が軽やかになっていきました。あと3回、スキー活動の機会があります。最終回を迎える頃、皆がどれだけ成長しているか楽しみです！



西村崇司のつぶやき

＼四季はどこへ／

1月20日から2月3日までは二十四節気のひとつ大寒（だいかん）で、1年のうちでもっとも寒くなる時期とされていますがこの2日間はそう寒くなく、ことしの冬、体の芯から冷える日があったのか定かではありません。昨年の秋口に出た「今年の冬は暖冬となりそうです」の長期予報が当たっているような気がします。ところで、わたしはカエルが好きで初鳴き日を毎年手帳につけています。今年はなんと去年12月27日の夜で「とても驚く」と書いてありました。その後、1月1日夜、18日夜、4回目の20日は初めて夜から翌日の日中にも鳴いているのでカエルは春が間近になったと感じているのかも知れません。去年の手帳を見たついでに去年1年間がどうだったか見てみると次のとおりです（※印は北三瓶）。

2022年12月14日> ※初積雪、2023年1月13日> カエル家の周りで初鳴き、27~30日> ※積雪最大40センチ、2月9日> ムカデが出る、12日> 梅開花、28日> 15℃とてもあたたかい。生ワカメを近所よりいただく、3月10~12日> ※20℃早や夏？、夜、センターの池の周りにヒキガエル出沒、12日> ツバメ1羽飛来。早い、4月8日> タラノメ初採り（旬過ぎる大きさ）、20日> ※27℃（初の夏日）、5月29日> 梅雨入り、6月4日> ツバメ7羽巣立ち（1回目）。ホタル初見、7月20日> 梅雨明け・ツバメ4羽巣立ち（2回目）、9月19日頃> ツバメ南国へ渡り（例年より早い？）、10月9日> 静間川に冬鳥飛来、17日> ※約15ミリのヒョウ降る、この大きさを見るのははじめて、11月6日> 急に冷え込むが初秋のようなあたたかい日も多い、12月15日> 20℃、Tシャツ・短パン姿の人を見る、16日> 一転寒くなり小雪、17日> ※初積雪5cm、25~26日> ※積雪10センチ、あたたかいのですぐに解け出す、27日> 夜、カエル初鳴き、驚く。

昨年とはとても暑かった、5月初めには夏が来た、こよみの上では秋だけれど夏のような日が多かったという記憶はまだ新しいですが、こういったかたちで文字化するとなんとなく「異常気温」の事象が目に見えてきます。12月の全国紙で気象の専門家が、夏の暑さが11月頃まで残り、ゴールデンウィーク前後に夏の暑さがやってくるが多くなったことについて「日本の四季が「二季」化する」と表現されていることを知りました。この記事で日本の四季はなくならないだろうが例えば「春めく」気配を感じ季節の移ろいを堪能する日々が今後あるのかは見通せないと書かれていました。わたしも肌感覚でよく理解できますし、今後、春は何月から何月までといった括り方や二十四節気で季節や気象を適切に表現することはきわめて難しいかも知れません。しかし、地球規模の高温化は食糧に直結する農林漁業へ確実に大きなダメージを与えます。日本の国に住んでいる私たちにとって四季はひとつのバロメーターです。四季の始まりが前や後ろにずれたり、その期間の長さが年によって違うことになっても、日本の国には四季の季節があるという取り組みはしないといけないと思っています。

「くにびき通信」2024年1月号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL:0854-86-0700 FAX:0854-86-0701 Email:o-sanryu@city.oda.lg.jp



大田市山村留学センター
公式ホームページ



くにびき通信
カラー版